

## [交通アクセス]



- 大阪モノレール彩都線：『大阪病院前』下車
- JR東海道本線(京都線)：JR茨木駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車
- 阪急電鉄京都線：阪急茨木市駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車
- Osaka Metro御堂筋線：北大阪急行千里中央駅から阪急バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車



### [阪大病院ニュース]

阪大病院ニュースをwebで公開しています。

阪大病院ニュース



 大阪大学医学部附属病院

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号 TEL. 06-6879-5111(代表)

阪大病院



# Osaka University Hospital Outline

## 大阪大学医学部附属病院 要覧



Live Locally, Grow Globally

# 2021



OSAKA UNIVERSITY



## 理念

大阪大学医学部附属病院は、  
良質な医療を提供すると共に、  
医療人の育成と医療の発展に貢献する。

### [医の先進性を志して150年余り]

1869(明治2)年大阪府が大福寺に仮病院・医学校を設立した際、緒方洪庵の嗣子緒方惟準、義弟郁蔵、養子拙斎らがこれに参加。この医学校は、後に幾多の変遷を経て現在の大阪大学医学部となった。  
阪大病院の理念は緒方洪庵の思想を受け継いでいる。



緒方 洪庵

## 基本方針

- 患者本位の安心・安全な全人的医療の提供
- 高度先進医療・未来医療の開発・実践
- 社会・地域医療への貢献
- 豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

## 患者さんの権利

- 人として尊重された医療を受けることができます。
- 安全で質の高い医療を受けることができます。
- 十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 他の医療機関の医師に意見(セカンドオピニオン)を聞くことができます。
- 自由な意思によって治療を選ぶことができます。
- 個人の情報は保護されています。

## 患者さんの責務

- 本院の規則を遵守し、迷惑行為は慎んでください。
- ご自身の健康状態について、できる限り正確にお話してください。
- 適切な治療方針を決めるために、ご自身の意思や意見を伝えてください。
- 治療方針をご理解のうえ、ご協力ください。
- ご加入の保険を正確に伝え、受けた医療に対する医療費をお支払いください。

## Contents [目次]

理念・基本方針・患者さんの権利・患者さんの責務	02
高度急性期医療と先進的医療の開発・研究を総合力と優れた安全の下で	03
病院長からのご挨拶	04
沿革	05
機構／職種別職員数／職員	07
資料	09
診療科別外来患者数／病棟フロア別入院患者数	
資料	11
臨床検査件数／手術件数／画像検査患者数／輸血検査件数／処方枚数／ 病理業務件数／リハビリテーション実施単位数／地域別入院患者数／ 治験件数／移植件数／院内がん登録件数／入院、外来抗がん剤調製件数／ ドクターヘリ出動件数／分娩件数／血液浄化療法施行件数	
医療機関の承認・指定状況等	13
経理状況／未来医療の推進	14
構内建物配置図／階別配置図・病床数	15
トピックス(腸管不全治療センターの開設／臨床凍結保存センターの開設)	17
写真で見る大阪大学医学部附属病院	18



●病院機能評価認定証  
2016年1月に  
(公財)日本医療機能評価機構から  
最新基準(3rdG:Ver.1.1)に  
認定されました。



●ISO15189認定証  
2015年9月に  
(公財)日本適合性認定協会から  
認定承認を受けました。



●大阪府難病診療連携拠点病院指定書  
2018年11月に  
大阪府から指定を受けました。



●臨床研究中核病院承認通知書  
2015年8月に厚生労働省から  
承認を受けました。



●がんゲム医療中核拠点病院指定書  
2020年3月に厚生労働省から  
指定を受けました。



●外国人患者受入れ医療機関認定制度(JMPE)認証書  
2019年3月に(一財)日本医療教育財団から  
再認されました。



## 高度急性期医療と先進的医療の 開発・研究を総合力と優れた安全の下で

### 【教育】豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 臨床と研究能力を兼ね備えた医師の養成。
- 特定行為研修の推進。
- 看護・医療技術領域の医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



### 【研究】未来医療の開発・実践

- 未来医療開発部を軸に、臨床研究の拠点としての臨床研究支援体制の充実を図る。
- 臨床研究法等、臨床研究に関わる規制への対応。
- AIホスピタル事業の推進。
- 情報信託機能を用いた医療データ利活用実証事業の推進。

### 【診療】高度な医療の提供

- 病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 国及び地方公共団体等との連携強化。
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- 患者サービスの更なる向上を図り、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 全臓器移植を行っている国内で2施設しかない施設の1つであり、高度・先進的な臓器移植医療を今後も積極的に展開するとともに、小児も含めた臓器提供体制を十分に整備して責任ある臓器移植・臓器提供病院として本邦の移植医療の規範となる。
- 全国で最多の承認件数を誇る先進医療をさらに推進し、先進的な医療の開発を通し、医療水準の向上を図る。
- がんゲノム医療の推進。
- 病院情報システムの検討。

### 【地域医療への貢献】地域医療機関とのネットワーク

- 各センター等による地域医療への貢献を図る。

### 【国際化】診療と教育のグローバル化

- 国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制（インバウンド）と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制（アウトバウンド）、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育（国際医療研究・教育）を積極的に推進し整備する。

### 【運営】病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

病院長からのご挨拶

## Futurability 待ち遠しくなる未来へ。

大阪大学医学部附属病院

病院長 土岐 祐一郎



大阪大学医学部附属病院(阪大病院)の理念は「良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医学の発展に貢献する」です。3つの柱の中で一番先に来る「良質な医療の提供」とは一体どのような医療でしょうか?大学病院では最高のスタッフと最新の医療機器をそろえ、最良の医療、他ではできない医療を提供することができます。患者さんの求める大学病院ならではの高度な医療の提供が最大の目的です。更に現代の医療においてはより高い安全性を求められます。自動車もスピードを競うのではなく安全性を競う時代になりました。医療が複雑化、高度化するにつれて安全性を確保するために様々な努力が必要になります。阪大病院は国立大学病院長会議常置委員会の医療安全管理体制担当校として全国の医療安全をリードする立場にあり、患者さんには安心して高度な医療を受けていただくことができます。性能、安全性に続く、第3の良質の要素は快適性です。患者サービス部門では患者さんの声を反映させた様々な試みを行っています。しかし、快適性についてはまだ患者さんを十分満足させていないと感じています。問題の一つは病院の診療規模の急速な拡大です。本院は吹田に移転して27年になります。ベッド数は増えていないので同じように見えるかもしれませんが、そこで行われる検査の件数、手術や内視鏡・放射線治療の件数、そして職員の人数は倍以上に増えています。良質な医療を提供し続けた結果、患者さんからの評判は良くなり、質だけでなく、量も増えてくるのは有難いことです。しかし、診療待ちの時間や駐車場の混雑については、決して良質の快適性と言えない部分もあります。そこで本院では、病院再開発として新しい統合診療棟の建設に取り組んでいます。建設工事は2021年に始まり2025年の運用開始を目指す計画です。工事期間中には更なるご迷惑をおかけすることになりますが、ご容赦くださいますよう、よろしくお願いたします。

次に来るのは「医療人の育成」です。大阪大学では医師のみならず、医学部保健学科では看護師、検査技師、放射線技師、また薬学部では薬剤師と様々な医療職の育成を行っています。また、医療が高度化したことにより「卒業後は現場で仕事を覚える」では済まない時代になり、各種専門医や技術認定医、認定看護師など全ての業種で、働きながら勉強する社会人教育が必要になってきました。本院は大阪地区の社会人教育の中心として多数の地域の病院と連携しています。社会人教育を通して、大阪地区全体の医療を担っているといっても過言ではありません。

最後に来るのが「医学の発展」です。大阪大学は学問において日本で、世界でトップを競う大学です。本院は「臨床研究中核病院」として新しい医療を創出すべき大学病院として認定されています。例えば、未来医療開発部では大学と研究者が一体となって再生医療などの先進的な医療を開発しています。このほかにも「がんゲノム医療中核拠点病院」「AIホスピタル」と未来の医療を担う仕事を国から任されています。先に述べた病院再開発においても、現在の医療のみならず将来の医療を開発することを目的としています。病院再開発のキャッチフレーズは「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」といたしました。

患者さんや地域の皆さんの信頼と期待に応える病院となるように職員一同頑張っております。

# 沿革

## History

- 1838(天保9)年 蘭学者緒方洪庵「適塾」開塾。
- 
- 1869(明治2)年 新政府は、小松帯刀、後藤象二郎等の提唱により大阪府下大組内久宝寺町(現大阪市天王寺区上本町)に文部省直轄大坂病院(緒方一族主宰)を設置した。
- 1870(明治3)年 文部省は当該病院を大阪府に移管し、大阪府は府立病院及び医学所を設立した。
- 1871(明治4)年 再び文部省直轄となった。
- 1872(明治5)年 文部省の学制改革に伴い、医学所及び病院が廃止された。
- 1873(明治6)年 2月 大阪府は西本願寺掛所に大阪府病院を開設し、教授局を付設した。
- 1879(明治12)年 3月 北区常安町に病院を新築し、移転と同時に大阪公立病院と改称、別に教授局を設けた。
- 
- 1880(明治13)年 3月 府立大阪病院と改称し、教授局を分離して、府立大阪医学校を設立した。
- 1888(明治21)年 1月 府立大阪病院を府立大阪医学校に包摂し、校名を大阪医学校と改称した。
- 1893(明治26)年 3月 大阪医学校産婆養成所が開設された。
- 1898(明治31)年 4月 大阪医学校附属看護婦養成所が設立された。
- 1903(明治36)年 10月 専門学校令により、大阪府立高等医学校と改称された。
- 1915(大正4)年 10月 府立大阪医科大学と改称した。
- 1919(大正8)年 11月 大学令により府立大阪医科大学を改組し、大阪医科大学となって病院もこれに準じた。

- 1924(大正13)年 10月 大阪医科大学病院を大阪医科大学附属医院と改称した。(大阪市北区堂島浜通)
- 
- 1931(昭和6)年 5月 勅令第67号により大阪帝国大学が創設され、大阪医科大学を移管して医学部と改称された。
- 
- 1939(昭和14)年 1月 東館が増築された。
- 1943(昭和18)年 4月 北区堂島浜通から福島区堂島浜通に地名変更。
- 1945(昭和20)年 6月 看護婦養成所を厚生女子部と改称した。
- 1947(昭和22)年 10月 政令第204号により大阪帝国大学は大阪大学に改められた。
- 1949(昭和24)年 5月 国立学校設置法の公布に従い新制大学に包括され、医学部附属医院の名称は、医学部附属医院に改められた。
- 1951(昭和26)年 4月 大阪大学医学部附属医院厚生女子部を大阪看護学校と改称した。
- 1952(昭和27)年 4月 大阪大学医学部附属診療エクス線技師学校及び大阪大学医学部附属助産婦学校が設置された。
- 1953(昭和28)年 8月 大阪大学歯学部附属医院の設置(昭和26年3月)に伴い、医学部附属医院の診療科から歯科が分離された。
- 1963(昭和38)年 4月 大阪大学看護学校を大阪大学医学部附属看護学校と改称した。
- 1964(昭和39)年 3月 本院改築第1期工事が完成した。
- 1965(昭和40)年 4月 大阪大学医学部附属衛生検査技師学校が設置された。
- 1966(昭和41)年 4月 大阪大学医学部附属診療エクス線技師学校に専攻科が設置された。  
12月 本院改築第2期工事が完成した。
- 1968(昭和43)年 3月 大阪大学医療技術短期大学部設置(昭和42年6月)後の学年進行に伴い衛生検査技師学校が廃止された。

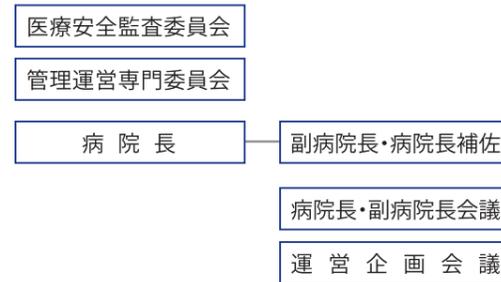
- 4月 大阪大学医学部附属病院分院が本院に統合された。
- 1969(昭和44)年 4月 大阪大学医療技術短期大学部設置後の学年進行に伴い看護学校及び診療エクス線技師学校が廃止された。
- 1970(昭和45)年 10月 本院改築第3期工事が完成した。
- 1971(昭和46)年 3月 給食厨房棟が完成した。
- 1973(昭和48)年 8月 本院改築第4期工事が完成した。
- 
- 1989(平成元年)年 3月 吹田市山田丘において病棟等の新築工事を着工した。
- 1993(平成5)年 9月 中之島キャンパス(大阪市福島区)から吹田キャンパスに移転したと同時に微生物病研究所附属病院を統合した。
- 
- 10月 大阪大学医療技術短期大学部を発展的に解消し、医学部保健学科が設置された。
- 1994(平成6)年 11月 特定機能病院に承認された。
- 1995(平成7)年 1月 1月17日午前5時46分阪神・淡路大震災発生、本院に多大の被害が生じた。  
3月 ポジトロン核医学診断システム棟が完成した。
- 1996(平成8)年 3月 大阪大学医療技術短期大学部が閉学された。
- 1997(平成9)年 3月 大阪大学医学部附属助産婦学校が閉校された。  
7月 心臓移植実施施設に認定された。
- 1998(平成10)年 4月 肺移植実施施設に認定された。
- 1999(平成11)年 2月 膵臓移植実施施設に認定された。  
移植法施行後初の脳死心臓移植を実施した。  
12月 小腸移植実施施設に認定された。  
病棟屋上にヘリポートが完成した。
- 2000(平成12)年 4月 診療科が22診療科から6大診療科に再編成された。

- 5月 肝臓移植実施施設に認定された。
- 2001(平成13)年 1月 日本医療機能評価機構から認定を受けた。
- 2004(平成16)年 4月 国立大学法人法の公布に伴い、大阪大学は国立大学法人大阪大学に改められた。
- 2006(平成18)年 1月 日本医療機能評価機構からVer5.0の認定を受けた。
- 2008(平成20)年 1月 大阪府からの委託事業としてドクターヘリの運航を開始した。
- 
- 2009(平成21)年 4月 地域がん診療連携拠点病院に指定された。
- 2011(平成23)年 1月 日本医療機能評価機構からVer6.0の認定を受けた。
- 2012(平成24)年 6月 移植法改正後初の小児(10歳未満)脳死心臓移植を実施した。
- 2015(平成27)年 3月 質の高い倫理審査委員会設置病院として認定された。  
8月 臨床研究中核病院に認定された。  
9月 オンコロジーセンター棟が完成した。  
臨床検査のISO認定を受けた。
- 2016(平成28)年 1月 日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.1.1の認定を受けた。  
3月 外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)に認証された。  
9月 ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)に推奨された。
- 2018(平成30)年 2月 がんゲノム医療中核拠点病院に指定された。  
11月 大阪府難病診療連携拠点病院に指定された。
- 2019(平成31)年 3月 外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)に更新が認証された。  
11月 小児がん連携病院に指定された。
- 2020(令和2)年 4月 ドクターカー、DMATカーを導入した。  
地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定された。  
8月 大阪府新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定された。

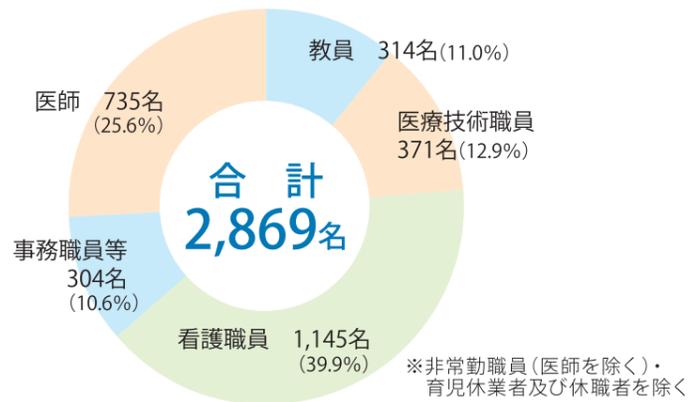
# 機構／職種別職員数／職員 (2021年5月1日現在)

## Organization Chart／Number of Staff／Faculty and Administrative Officers

### [機構]



### [職種別職員数]



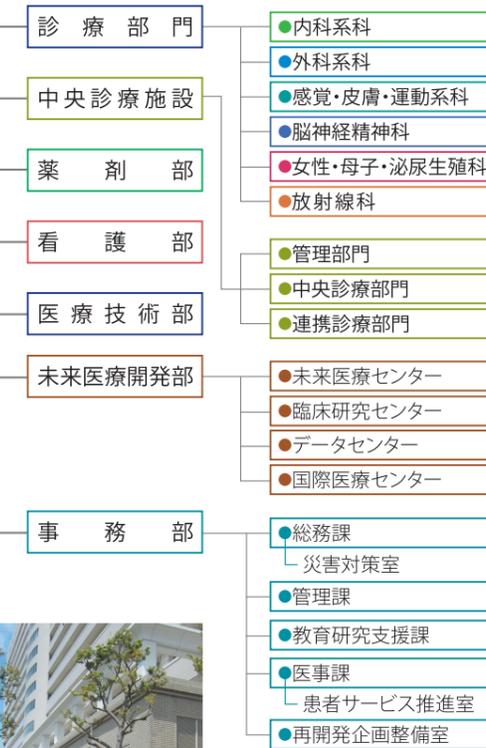
### [職員]

#### 管理者

病院長	教授	土岐 祐一郎	病院長補佐 (小児・周産期・再開発担当)	教授	木村 正
副病院長 (人事労務・医療安全担当)	教授	竹原 徹郎	(研究・救急医療担当)	教授	坂田 泰史
(財務・がん診療担当)	教授	野々村 祝夫	(中央診療施設担当)	教授	小川 和彦
(教育・診療体制担当)	教授	藤野 裕士	(広報・中期目標・計画担当)	教授	奥山 宏臣
(ホスピタリティ担当)	看護部長	岩崎 朋之	(医療情報・地域医療・外部評価担当)	准教授	武田理宏(代理)
			(女性支援・ダイバーシティ担当)	教授	池田 学
			(経営・組織改革担当)	事務部長	山腰 俊昭

#### 診療部門

●内科系科	部門長(教授)	坂田 泰史	●外科系科	部門長(教授)	土岐 祐一郎
循環器内科	科長(教授)	坂田 泰史	心臓血管外科	科長事務取扱(病院教授)	戸田 宏一
腎臓内科	科長(教授)	猪阪 善隆	呼吸器外科	科長(教授)	新谷 康
消化器内科	科長(教授)	竹原 徹郎	消化器外科(下部消化管、肝、胆)	科長(教授)	江口 英利
糖尿病・内分泌・代謝内科	科長(教授)	下村 伊一郎	消化器外科(上部消化管、膵)	科長(教授)	土岐 祐一郎
呼吸器内科	科長(講師)	武田 吉人	乳腺・内分泌外科	科長(教授)	島津 研三
免疫内科	科長(教授)	熊ノ郷 淳	小児外科	科長(教授)	奥山 宏臣
血液・腫瘍内科	科長(教授)	保仙 直毅	病理診断科	科長(教授)	森井 英一
老年・高血圧内科	科長(教授)	樂木 宏実			
漢方内科	科長(特任教授(常勤))	萩原 圭祐			
総合診療科	科長(教授)	樂木 宏実			



●感覚・皮膚・運動系科	部門長(教授)	藤本 学
眼科	科長(教授)	西田 幸二
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長(教授)	猪原 秀典
整形外科	科長(教授)	岡田 誠司
皮膚科	科長(教授)	藤本 学
形成外科	科長(教授)	久保 盾貴
リハビリテーション科	科長(教授)	岡田 誠司

●脳神経精神科	部門長(教授)	貴島 晴彦
神経内科・脳卒中科	科長(教授)	望月 秀樹
神経科・精神科	科長(教授)	池田 学
脳神経外科	科長(教授)	貴島 晴彦
麻酔科	科長(教授)	藤野 裕士

●女性・母子・泌尿生殖科	部門長(教授)	大 菌 惠一
産科	科長(教授)	木村 正
婦人科	科長(教授)	木村 正
小児科	科長(教授)	大 菌 惠一
泌尿器科	科長(教授)	野々村 祝夫

●放射線科	部門長(教授)	富山 憲幸
放射線診断・IVR科	科長(教授)	富山 憲幸
放射線治療科	科長(教授)	小川 和彦
核医学診療科	科長事務取扱(講師)	加藤 弘樹

#### 中央診療施設

##### [管理部門]

●材料部	部長(病院教授)	高階 雅紀
●病理部	部長(教授)	森井 英一
●輸血部	部長(准教授)	柏木 浩和
●医療情報部	部長事務取扱(准教授)	武田 理宏
●感染制御部	部長(教授)	樂木 宏実
●中央クオリティマネジメント部	部長(特任教授(常勤))	中村 京太
●臨床工学部	部長(病院教授)	高階 雅紀
●保健医療福祉ネットワーク部	部長(教授)	樂木 宏実
●移植医療部	部長(特任教授(常勤))	上野 豪久
●栄養マネジメント部	部長(教授)	下村 伊一郎
●サブライセンター	センター長(病院教授)	高階 雅紀
●卒後教育開発センター	センター長(教授)	渡部 健二
●看護部キャリア開発センター	センター長	岩崎 朋之
●高難度新規医療技術審査部	部長(教授)	新谷 康
●未承認新規医薬品等診療審査部	部長(教授)	竹原 徹郎
●AI医療センター	センター長(教授)	西田 幸二
●臨床凍結保存センター	センター長(教授)	木村 正

##### [中央診療部門]

●臨床検査部	部長(病院教授)	日高 洋人
●手術部	部長(特任教授(常勤))	南 正人
●放射線部	部長(教授)	富山 憲幸
●集中治療部	部長(教授)	藤野 裕士
●リハビリテーション部	部長(教授)	岡田 誠司
●総合診療部	部長(教授)	樂木 宏実
●血液浄化部	部長(教授)	猪阪 善隆
●遺伝子診療部	部長(教授)	望月 秀樹
●化学療法部	部長(病院教授)	水木 満佐央
●放射線治療部	部長(教授)	小川 和彦
●総合周産期母子医療センター	センター長(教授)	大 菌 惠一

●高度救命救急センター	センター長事務取扱(病院教授)	小倉 裕司
●内視鏡センター	センター長(教授)	竹原 徹郎
●超音波検査センター	センター長(教授)	坂田 泰史

##### [連携診療部門]

●脳卒中センター	センター長(教授)	望月 秀樹
●前立腺センター	センター長(教授)	野々村 祝夫
●睡眠医療センター	センター長(教授)	池田 学
●疼痛医療センター	センター長(教授)	貴島 晴彦
●生殖医療センター	センター長(教授)	野々村 祝夫
●ハートセンター	センター長(教授)	坂田 泰史
●小児医療センター	センター長(教授)	奥山 宏臣
●オンコロジーセンター	センター長(教授)	江口 英利
●呼吸器センター	センター長(教授)	新谷 康
●てんかんセンター	センター長(教授)	貴島 晴彦
●消化器センター	センター長(教授)	竹原 徹郎
●IVRセンター	センター長(講師)	東原 大樹
●胎児診断治療センター	センター長(教授)	奥山 宏臣
●難病医療推進センター	センター長(教授)	大 菌 惠一
●子どものこころの診療センター	センター長(教授)	大 菌 惠一
●がんゲノム医療センター	センター長(教授)	野々村 祝夫
●糖尿病センター	センター長(教授)	下村 伊一郎
●緩和医療センター	センター長(教授)	江口 英利
●腸管不全治療センター	センター長(教授)	奥山 宏臣

#### 薬剤部

部長(教授)	奥田 真弘
副部長	門脇 裕子
副部長	山本 智也
副部長	前田 真一郎

#### 看護部

部長	岩崎 朋之
副部長	谷浦 葉子
副部長	佃 順子
副部長	鍋谷 佳子
副部長	天野 美希

#### 医療技術部

部長	前田 育宏
副部長	藤 埜 浩一
副部長	橋田 剛一
副部長	南 茂

#### 未来医療開発部

部長(教授)	坂田 泰史
副部長(教授)	保仙 直毅
センター長(教授)	名井 陽
センター長(教授)	山本 洋一
センター長(特任教授(常勤))	山田 知美
センター長(教授)	中田 研

#### 事務部

部長	山腰 俊昭
課長	脇 元直彦
室長	脇 元直彦
課長	清水 隆行
課長	三好 裕美
課長	岩谷 好和
室長	岩谷 好和
室長	清水 隆行

[診療科別外来患者数]

区分	外来患者延数 (単位:人)	一日平均患者数 (単位:人)	平均通院日数 (単位:日)
■総合診療科	6,302	25.9	10.3
■循環器内科	25,896	106.6	42.8
■腎臓内科	15,072	62.0	89.7
■消化器内科	41,581	171.1	54.0
■糖尿病・内分泌・代謝内科	41,009	168.8	106.5
■呼吸器内科	12,248	50.4	40.6
■免疫内科	19,858	81.7	45.1
■血液・腫瘍内科	17,307	71.2	79.4
■老年・高血圧内科	12,577	51.8	50.9
■心臓血管外科	10,147	41.8	36.4
■呼吸器外科	6,822	28.1	32.6
■消化器外科	29,527	121.5	38.4
■乳腺・内分泌外科	15,163	62.4	35.7
■小児外科	5,658	23.3	23.7
■眼科	55,878	230.0	17.1
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	25,435	104.7	23.2
■整形外科	26,794	110.3	20.6
■皮膚科	20,191	83.1	20.5
■形成外科	7,776	32.0	22.8
■神経内科・脳卒中科	18,746	77.1	33.8
■神経科・精神科	18,955	78.0	39.5
■脳神経外科	14,325	59.0	20.2
■麻酔科	10,892	44.8	49.1
■産科・婦人科	28,163	115.9	14.6
■小児科	22,126	91.1	29.3
■泌尿器科	20,377	83.9	37.2
■放射線診断・IVR科			
■放射線治療科	17,168	70.7	141.9
■核医学診療科			
■高度救命救急センター	1,492	6.1	26.2
■歯科	4,700	19.3	3.6
<b>合計</b>	<b>552,185</b>	<b>2,272.4</b>	<b>28.6</b>

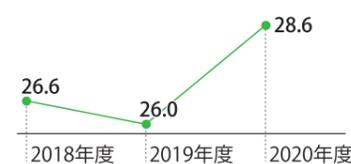
[外来患者延数の推移]  
(単位:人)



[一日平均患者数の推移]  
(単位:人)



[平均通院日数の推移]  
(単位:日)

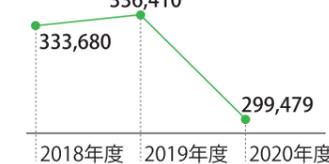


[病棟フロア別入院患者数]

西病棟						東病棟					
階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	1日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)	階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	1日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)
13	■脳神経精神科 (脳神経外科)	14,227	39.0	14.1	78.0	13	■感覚・皮膚・運動系科 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	14,721	40.3	16.6	79.1
12	■女性・母子・泌尿生殖器科 (泌尿器科)	14,143	38.7	13.3	80.7	12	■内科系科 (糖尿病・内分泌・代謝内科/免疫内科)	14,632	40.1	14.7	75.6
11	■外科系科 (消化器外科)	14,834	40.6	15.1	81.3	11	■内科系科 (消化器内科)	15,400	42.2	11.2	84.4
10	■外科系科 (消化器外科)	15,081	41.3	14.1	78.0	10	■内科系科 (血液・腫瘍内科)	13,724	37.6	29.2	76.7
9	■外科系科 (心臓血管外科)	15,572	42.7	14.6	87.1	9	■内科系科 (循環器内科)	15,789	43.3	15.3	86.5
8	■外科系科 (乳腺・内分泌外科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科/形成外科)	15,287	41.9	10.5	83.8	8	■脳神経精神科 (神経内科・脳卒中科) ■内科系科 (老年・高血圧内科)	14,619	40.1	12.7	80.1
7	■感覚・皮膚・運動系科 (眼科)	16,611	45.5	6.7	85.9	7	■内科系科(呼吸器内科) ■外科系科(呼吸器外科)	14,876	40.8	12.4	83.2
6	■外科系科 (小児外科)	9,677	26.5	8.8	66.3	6	■女性・母子・泌尿生殖器科 (小児科)	11,742	32.2	11.7	67.0
5	■感覚・皮膚・運動系科 (整形外科)	13,625	37.3	17.8	73.2	5	■女性・母子・泌尿生殖器科 (産婦人科)	14,311	39.2	8.2	78.4
4	■集中治療部	1,782	4.9	13.2	54.3	4	■集中治療部	5,308	14.5	5.1	72.7
3	■総合周産期 母子医療センター	12,425	34.0	7.5	89.6	3	■内科系科 (腎臓内科/糖尿病・内分泌・代謝内科) ■放射線科 ■脳神経精神科 (麻酔科)	6,193	17.0	8.3	39.5
						2	■脳神経精神科 (神経科・精神科)	9,824	26.9	32.3	51.8
						1	■高度救命 救急センター	5,076	13.9	4.9	69.5

合計	入院患者延数 (単位:人)	299,479	一日平均入院患者数 (単位:人)	820.5	平均在院日数 (単位:日)	13.7	病床稼働率 (単位:%)	76.3
----	------------------	---------	---------------------	-------	------------------	------	-----------------	------

[入院患者延数の推移]  
(単位:人)



[一日平均入院患者数の推移]  
(単位:人)



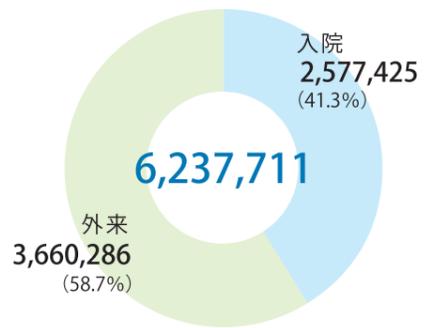
[平均在院日数の推移]  
(単位:日)



[病床稼働率の推移]  
(単位:%)



[臨床検査件数] (単位: 件)



[手術件数] (単位: 件)

■循環器内科	65
■心臓血管外科	1,367
■呼吸器外科	355
■消化器外科	747
■乳腺・内分泌外科	335
■小児外科	442
■眼科	3,395
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	613
■整形外科	646
■皮膚科	178
■形成外科	464
■神経科・精神科	165
■脳神経外科	457
■麻酔科	89
■産科・婦人科	845
■泌尿器科	517
■高度救命救急センター	51
■骨髄採取 (血液・腫瘍内科、集中治療部)	5
■その他 (消化器内科、小児科、腎臓内科、集中治療部、血液・腫瘍内科、放射線治療科)	129
<b>合計</b>	<b>10,865</b>

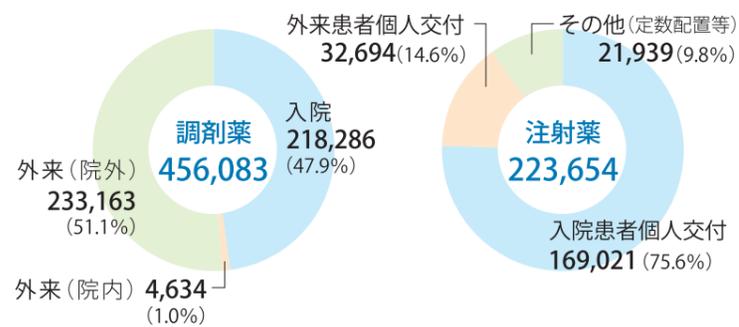
[画像検査患者数] (単位: 人)

区分	入院患者数	外来患者数	合計
■一般撮影	60,542	52,291	112,833
■特殊撮影	23,935	28,155	52,090
■核医学検査	1,172	4,055	5,227
<b>合計</b>	<b>85,649</b>	<b>84,501</b>	<b>170,150</b>

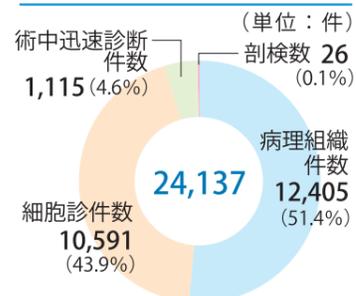
[輸血検査件数] (単位: 件)

■血液検査 ABO,Rh(D)	19,553
■その他血液型 (Rh Cc Ee 含む)	72
■不規則抗体検査 (スクリーニング検査)	15,466
■交差適合試験	12,250
■抗血小板抗体検査	212
■寒冷凝集反応	98
■直接クームス試験	237
■間接クームス試験	171
<b>合計</b>	<b>48,059</b>

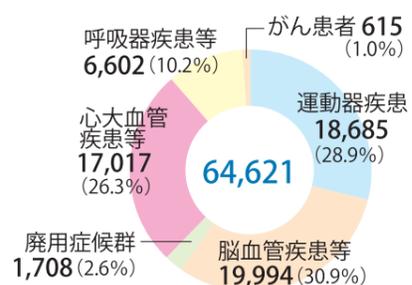
[処方枚数] (単位: 枚)



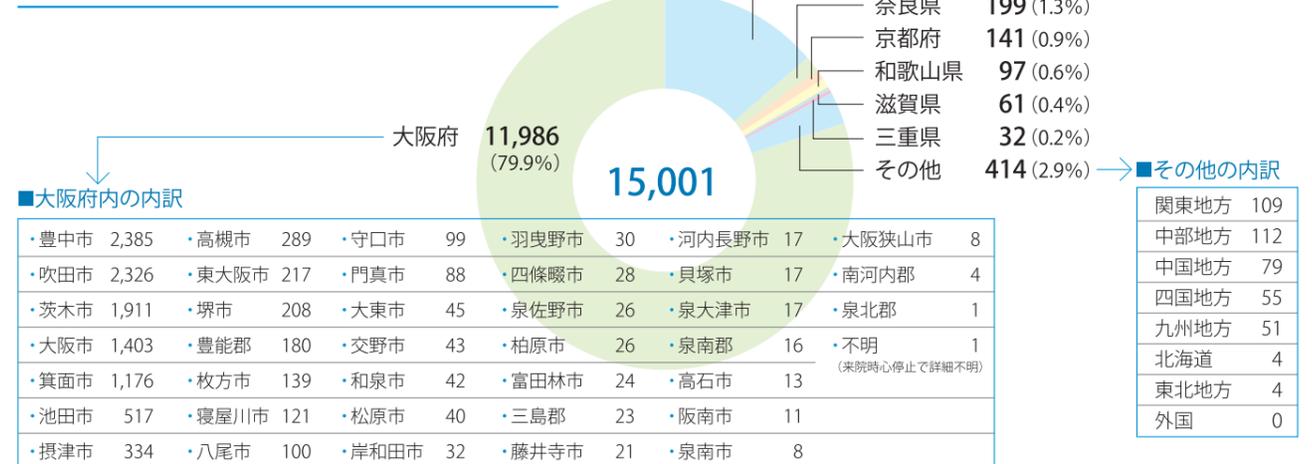
[病理業務件数] (単位: 件)



[リハビリテーション実施単位数]



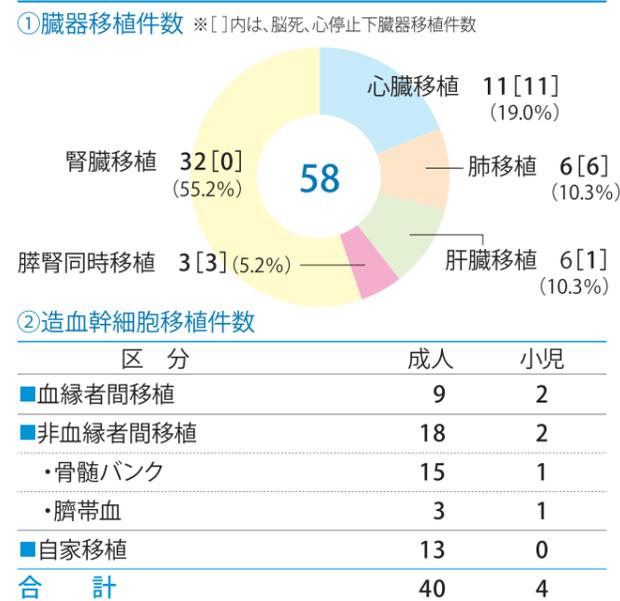
[地域別入院患者数] (単位: 人)



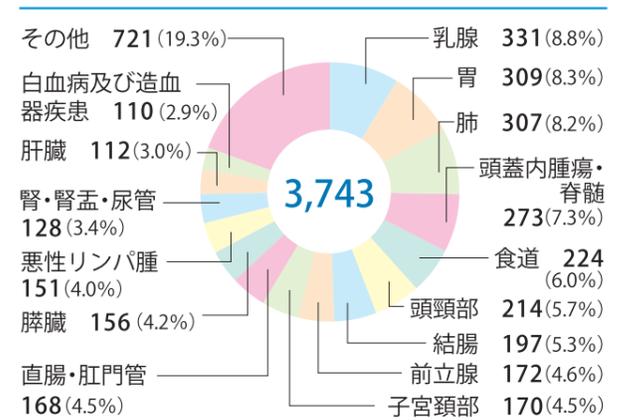
[治験件数] (単位: 件)

	総件数	総症例数
■医薬品	274	1,130
■医療機器	29	370
<b>総計</b>	<b>*303</b>	<b>*1,500</b>

[移植件数] (単位: 件)



[院内がん登録件数] ※2019年診断分 (単位: 件)



[入院、外来抗がん剤調製件数] (単位: 件)



[ドクターヘリ出動件数] ..... 106件

[分娩件数] ..... 688件

[血液浄化療法施行件数] ..... 4,321件

# 医療機関の承認・指定状況等 (2021年5月1日現在)

## Legal Authorization of Medical Services

### [医療機関の承認]

- 臨床修練指定病院
- 医療法第7条第1項による開設許可(承認)
- 健康保健法による(特定承認)保険医療機関
- 生活保護法による医療機関
- 労働者災害補償保険法による医療機関
- 原爆医療法による一般医療法
- 原爆医療法による認定医療法
- 母子保健法による妊婦乳児健康診査
- 母子保健法による養育医療
- 戦傷病者特別援護法による厚生医療
- 特定機能病院の名称の使用承認
- エイズ治療拠点病院
- 大阪府災害拠点病院
- 感染症予防法による指定届出機関(基幹定点)
- 大阪府三次救急医療機関
- 大阪府肝炎専門医療機関
- 覚せい剤取締法による国の開設する覚せい剤施用機関
- 障害者総合支援法による更生医療
- 障害者総合支援法による育成医療
- 障害者総合支援法による精神通院
- 入管難民法による出入国管理及び難民認定法に基づく指定医
- 大阪府総合周産期母子医療センター指定
- 医療観察法による指定通院
- 大阪府肝疾患診療連携拠点病院
- 児童福祉法第19条の9第1項の規定による指定小児慢性特定疾病医療機関
- 難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関
- 臨床教授等指定病院
- 医療法上の臨床研究中核病院
- がんゲノム医療中核拠点病院
- 大阪府難病診療連携拠点病院
- 外国人患者受入れ医療機関
- 小児がん連携病院
- 大阪府小児がん拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院(高度型)
- 大阪府てんかん診療拠点機関
- 大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関
- 大阪府がん患者妊よう性温存治療実施医療機関

※太字は大阪府による承認指定

### [先進医療]

- パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法  
上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん
- 自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療  
胸髄損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷協会によるAISがAである患者に係るものに限る。)を呈するものに限る。)
- 術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツマブ静脈内投与の併用療法  
切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)
- テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)
- マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)
- 術後のアスピリン経口投与療法  
下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)

# 経理状況／未来医療の推進

## Finance／Translational Research

### [収入と支出] (2020年度) ※受託研究等外部資金及び施設費は除く

収入 (単位：千円)

区分	金額
運営費交付金	3,926,071
附属病院収入	39,563,832
その他収入	4,927,802
<b>合計</b>	<b>48,417,705</b>

支出 (単位：千円)

区分	金額
人件費	17,179,207
医療費	19,373,989
債務償還経費	1,103,208
業務費	9,476,090
再開発積立金	1,157,211
借入金返済	128,000
<b>合計</b>	<b>48,417,705</b>

### [受託研究等外部資金及び施設費]

外部資金受入額 (単位：千円)

区分	金額	
受託研究等収入	受託研究	351,065
	治験	807,918
	共同研究	82,892
受託事業等収入	受託実習生	9,050
	病院研修生	1,008
	その他	9,906
	共同事業	14,400
寄付金収入	127,475	
補助金等収入	4,052,019	
<b>合計</b>	<b>5,455,733</b>	

施設費 (単位：千円)

区分	金額	
施設整備	再開発事業	23,597
<b>合計</b>	<b>23,597</b>	

### トランスレーショナルリサーチの推進

新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくトランスレーショナルリサーチ(TR)を実践推進していきます。

- TRの実施件数 (2020年度)
- 新規TRシーズ支援件数：36件
- 臨床研究新規許可件数：6件  
(内4件医師主導治験)

### 診療と教育・研究のグローバル化

本院では2013年4月に、外国人診療や外国人医療研修に関連する様々な業務やコーディネートを一貫して行う部署として、国際医療センターを設置し、各部署と連携しながら診療・教育・研究のグローバル化を目指して下記の事業に取り組んでいます。

#### 国際診療支援基盤整備

- 海外からの患者受入れ体制の整備
- 海外からの医療研修受入れの推進
- 関西での国際医療ネットワーク形成

#### アウトバウンド

- 世界市場への日本の医薬品・医療機器の展開
- 国際共同治験・共同研究の推進
- 日本の医療システムの海外進出

#### 国際医療教育・研究

- 大阪大学内外の研究・教育施設との協力による国際医療教育・研究の推進

#### 国際機能評価

- 国際病院評価機構(JCI) 受審に向けた準備。
- 外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMP)更新審査を受審し、認証された。(2019年3月更新)
- ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)に推奨された。(2019年9月更新)
- 大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関に選定された。(2019年10月)

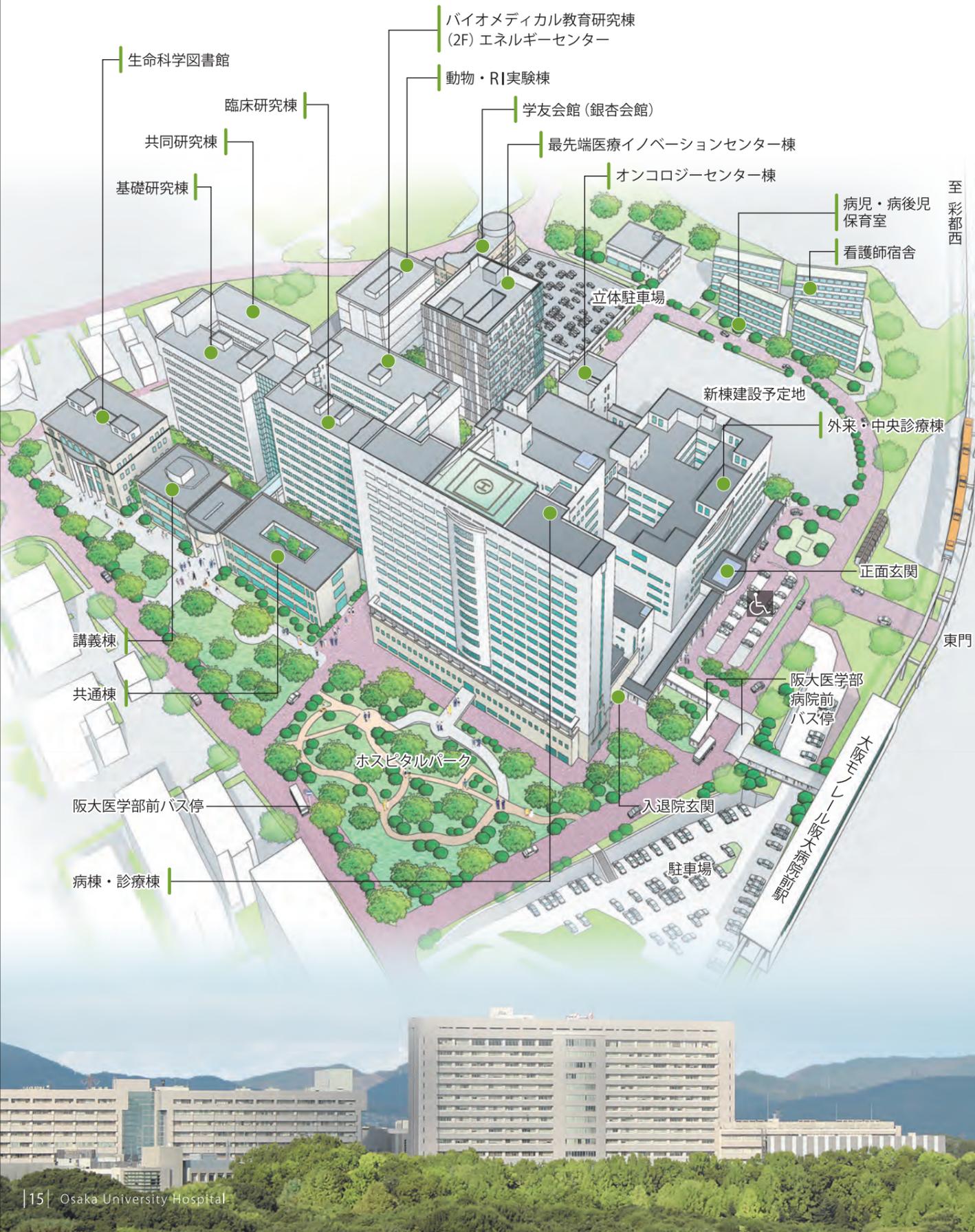
### Limited Japanese Proficiency (LJP) 患者対応延べ数

※LJP:医療通訳を必要とする日本語が母語でない、もしくは日本語でのコミュニケーションに制限がある患者



# 構内建物配置図／階別配置図・病床数

## Buildings Layout / Building Directory and Number of Beds



### [病棟・診療棟 (病床数 1,086床) ※フェーズI病床(10床)を含む]

西病棟		東病棟	
14階	レストラン、休憩所、会議室、中央クオリティマネジメント部		
13階	脳神経外科、神経内科・脳卒中科 50床	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 51床	
12階	泌尿器科 48床	糖尿病・内分泌・代謝内科、免疫内科 53床	
11階	[消化器センター] 消化器外科 50床	[消化器センター] 消化器内科 50床	
10階	[消化器センター] 消化器外科 53床	血液・腫瘍内科 49床	
9階	[ハートセンター] 心血管外科、CVCU 49床	[ハートセンター] 循環器内科、CCU 50床	
8階	乳腺・内分泌外科、皮膚科、形成外科、心血管外科 50床	神経内科・脳卒中科、老年・高血圧内科、総合診療科 50床	
7階	眼科 53床	[呼吸器センター] 呼吸器内科、呼吸器外科 49床	
6階	[小児医療センター] 小児外科 40床	[小児医療センター] 小児科 48床	
5階	整形外科 51床	産科・婦人科 50床	
4階	集中治療部 (ICU) 9床	集中治療部 (ICU) 20床	
3階	[総合周産期母子医療センター] 周産期病床、MFICU、NICU、GCU 38床	腎臓内科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、麻酔科 43床 糖尿病・内分泌・代謝内科、高度救命救急センターバックベッド	
2階	看護部、血液浄化部	神経科・精神科 52床	
1階	リハビリテーション部、郵便局、ファミリーマート、食堂、理容室、美容室、専門書店等	高度救命救急センター 医療情報部、入退院センター、守衛室、防災センター 20床	
B1階	栄養管理室、厨房、霊安室	薬剤部、医事課事務室	

### [外来・中央診療棟]

	中央診療施設等	外 来	その他
4階	手術部、移植医療部、感染制御部、卒後教育開発センター、看護部キャリア開発センター		ボランティア控室、院内学級職員室、シミュレーション室、医事課事務室、フェーズI病床 10床、細胞培養調製施設 (CPC)
3階	材料部、病理部、輸血部、臨床工学部	泌尿器科、産科・婦人科、神経科・精神科、外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、麻酔科術前外来、皮膚科、形成外科	患者図書コーナー、治験コーナー、臨床研究相談窓口、相談室1 (集合入院説明)、入院支援室
2階	臨床検査部、内視鏡センター	内科2階西、内科2階東、糖尿病ケア・看護外来、麻酔科、小児科、小児外科、脳神経外科	授乳室
1階	放射線部、保健医療福祉ネットワーク部	眼科、整形外科、リハビリテーション科、内科1階・総合診療外来、禁煙外来、漢方外来、治験専門外来、補完医療外来、国際医療外来、感染制御、セカンドオピニオン外来	総合案内、外来受付カウンター、予約変更センター、ATM、診断書等受付窓口、薬剤・在宅療養器材交付窓口、院外処方せんFAX送信コーナー、患者相談室、栄養相談室、医事課事務室、コインロッカー
B1階	放射線部、遺伝子診療部、放射線治療部	放射線治療科、放射線診断・IVR科、核医学診療科	歯科治療室、中央病歴室、時間外薬剤交付窓口

### [医学部・同附属病院共通棟]

3階	医学部長室、病院長室、事務部長室 会議室等
2階	病院 総務課事務室、病院 管理課事務室
1階	病院 管理課事務室、医学部 事務室

### [オンコロジーセンター棟]

5階	がんゲノム医療センター
4階	がん相談支援センター 薬剤部 (オンコロジーセンター室)
3階	化学療法室
2階	化学療法室
1階	受付 診察室 採血・検査室
L階	スタッフエリア 設備室

### [最先端医療イノベーションセンター棟]

4階	未来医療開発部 病院 教育研究支援課事務室
----	-----------------------

※経済産業省の平成22年度先端技術実証・評価設備整備費補助金(技術の橋渡し拠点事業)により、大阪大学医学系研究科に設立された、産学官連携の研究拠点(地上9階・地下1階建て)

# 2020年度(2020年4月~2021年3月)の動き

## Topics

### Topics 1

## 腸管不全治療センターの開設

2020年4月1日付けで腸管不全治療センターを設置しました。腸管不全とは、腸から栄養や水分を吸収する機能が、先天的あるいは後天的に障害された状態のことで、静脈からの定期的な栄養・水分補給を要します。最も多い原因は短腸症と腸管運動障害で、先天的なものや後天的なものがあります。難病支援疾患のひとつであり、欧米では、基幹病院に腸管不全治療チームが設置され、患者を集約し専門的な診療(腸管リハビリテーション)を実践しています。しかし、日本にお

ける腸管不全患者の診療は個々の医師や単一診療科が中心となっており、在宅医療から小腸移植を含めた多職種連携医療を実践し広く患者を受け入れる部門を有する病院は存在しませんでした。この現状を踏まえ、本院では、日本における腸管不全治療の拠点として腸管不全治療センターを設置し、より包括的・専門的・長期的な多職種チーム医療体制を整備しました。現在年間50名以上の腸管不全患者に対して、個々の病状にあったオーダーメイド治療を多職種で積極的に支援しています。さらに2020年度にはコロナ下にも関わらず約20名の新規コンサルトを受け入れ、診断・治療にあたりました。



### Topics 2

## 臨床凍結保存センターの開設

臨床凍結保存センターは①再生医療のために患者に投与したiPS細胞その他を万が一の副作用が出た時のために長期間保存する、②患者に投与するために調整した細胞を保管管理する、③生殖補助医療やがんなどの疾患で将来性線機能低下が予想される患者から、凍結受精卵、卵子、精子、卵巣組織を預かり将来妊娠が可能になるまで長期間保存する(がん生殖医療など)、という3つの目的のため2020年9月1日に発足しました。研究的な要素を含む先端医療に関してはこれまで、その担当診療科が資料の保存管理に責任を持っていました。ここで言う長期保存とはカルテ保存義務期間(5年)を超えた10~20年の期間を指し、これまでの医療界の常識を超えています。この要望に応えるためには担当診療科や、医学系研究科の講座を超越した病院全体の安定的な体制が必要で本センターの発足となりました。

2025年に予定される統合診療棟の開設後には同棟にバイオバンク室が設置され、凍結された細胞をバイオバンクで一元管理する予定です。それまでは医学系研究科・未来医療開発部や生殖医療センターに間借りをする形で活動します。



●専従の技術職員が管理する液体窒素タンク



[エントランスホール]



[オープンテラス]



[病棟・診療棟外観]



[がん相談支援室]



[正面玄関]

## Osaka University Hospital through Photographs 写真で見る大阪大学医学部附属病院



[特定集中治療室(高機能ICU)]



[血液浄化部]



[ドクターヘリ]



[小児医療センター]



[ホスピタルパーク]



[高精細画像CT]



[入退院センター]



[手術支援ロボット ダヴィンチ]



[高度救命救急センター 血管造影室]



[オンコロジーセンター棟抗がん剤調製室]



[治験コーナー・臨床研究相談窓口]